

この度はこのような賞をいただき、誠にありがとうございます。本論文は、日常的に用いられるにもかかわらず曖昧なままにされてきた「青春」という概念を、大規模言語モデルを用いて定量的に定義する手法を提案したものです。

本研究を始めたきっかけは、学生生活を送るうえで「青春」をより深く味わい、大切にするためには、そもそも青春とは何か、どのような経験が青春的なのかを明らかにする必要があると考えたことでした。そのためには、個人の感覚に依存しない客観的な指標が不可欠だと感じ、このテーマに取り組むことにしました。

研究では、「青春」の本質を「意外性」と「ポジティブさ」という二つの要素に分解し、それらを定量的に測定するために、BERT モデルを中心とした複数の自然言語処理技術を活用しました。さらに、文章の流暢さも青春らしさを支える重要な要素と捉え、それを加味した「青春情報エントロピー」という独自の指標を考案しました。

この指標の妥当性を検証するため、Llama-3-ELYZA-JP-8B という日本語特化の大規模言語モデルを用いて、擬似的な評価者による一対比較を実施し、相関係数 0.333 という結果を得ました。有意水準 5%での統計的検定において相関の有意性も確認され、青春情報エントロピーが青春らしさを一定程度反映していることが示されました。

本研究で得られた知見は、他の抽象的な概念にも応用可能であると考えており、今後はそれらへの展開も視野に入れています。また、長文への適用や、多様な文化背景を持つ文脈での検証も進めていきたいと考えています。

最後になりますが、本研究を始めるきっかけを作ってくれた友人達、論文化前にプレゼンテーションの機会をくださったサークルの皆さま、そしてこのような発表と表彰の機会を提供してくださった名古屋大学高等教育研究センターおよび教養教育院の皆さまに、心より感謝申し上げます。